煙草の面影

佐藤義昭

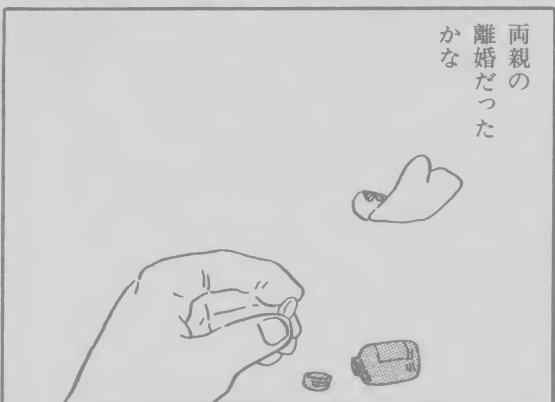
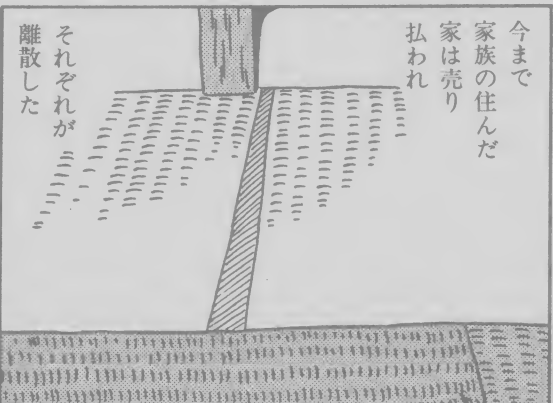
高校生だった

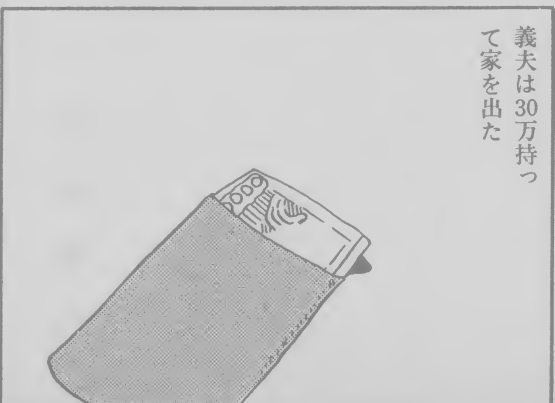
その年の夏
ミーンミーン

家出した

家出……

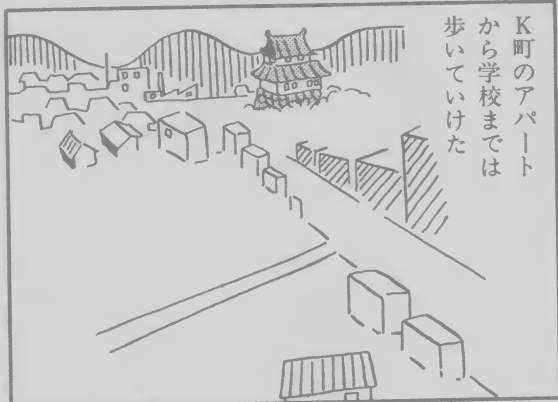
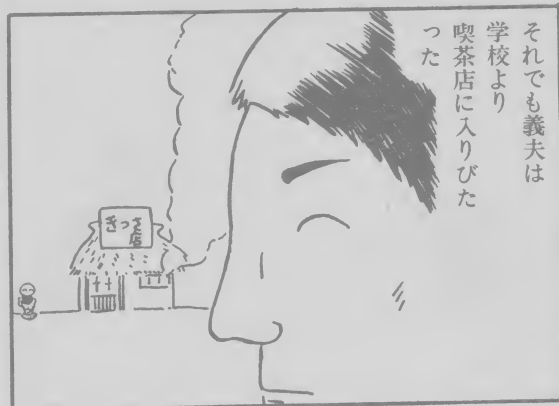
正確に言うと
彼のは違ってた

両親の
離婚だったた
かな

今まで
家族の住んだ
家は売り
払われ
それぞれが
離散した

義夫は30万持っ
て家を出た

10年も昔
の話だ

高校を卒業する
までには充分の金だった

K町のアパート
から学校までは
歩いていけた

それでも義夫は
学校より
喫茶店に入りびた
った
きっさ店

町の片隅にある
小さなJAZZ喫茶
だった

高校には
全出席日数の⅔程出れば
よい
生徒手帳
一、全出席日数の
3分の2以上の出
をもって1ヶ年の
修了した事と見做す。
一、服装自由。

コークハイと
煙草を覚えた

高校に行くにも
朝煙草を吸いながら
行くのを楽しんだ

その日

2時間目の
終った頃からだ

妙にめまいがして
発汗があった
煙草の吸い
すぎだろうと
思った

保健室ベッド!
義夫はカラカイ
半分にそこで
ねた

目覚めた時
昼を過ぎていた

「すごい熱よ！」

「家に
電話して
きましょう
ね」

「おかしいわね
かからないの
よ」

次に目覚めた時
外はもう夜になって
いた

そして……

こんな時でも
何も言えなかった

「どうも」

やがて高校では
バリストがあった
全共闘

出席など
どうでもいい

ミンナコワレロ

「ハイそこも
かたして」
あっけなく
終り
卒業だった
造反

二つめの
春

卒業して2年目
とうに忘れていた高校から
郵便物が届いた

卒業生名簿
創立以来の卒業生たちの名前が
のっていた
第1期〜第35期生
卒業生名簿

彼の名前もある

そして
たった一枚のワラ半紙

会計の事
転出した先生
転入した先生

そして片隅の片隅に
保健のN先生が
死亡致しました

あの先生だろうか
と思った

アルバム帳を
ひっぱり出し
教師たちの顔を
見た

N先生
N先生……
先生
生

N先生という
字の上には

あの時看病してくれた
N先生がいた